

第2回市民説明会（24.1.22開催） 意見の概要及び市の回答一覧 計9件

| | 意見の概要 | 市の回答 |
|----|---|--|
| 男性 | <p>○ パブリックコメントの対象範囲を市内在住・在勤・在学等に限定していることは国際的にも反する。故郷に思う過去の市民や未来の市民についても考慮し、すべての人が対象でなければパブリックコメントと書いてはいけない。市はどう考えているのか。</p> <p>○ 素案は点字またはテープ起こし等を行っているのか。視覚障害者を事前に排除していることにはならないか。</p> <p>○ ライフステージを4つに分けているがその理由を聞きたい。</p> <p>○ リプロダクティブヘルスの考え方は盛り込まれているか。</p> <p>○ 協働の「協」は行政に協力するというニュアンスに聞こえる。共に働くという共同の方が良いのではないか。</p> <p>○ 災害時要援護者支援についてはもっと早い動きで対応してほしい。</p> <p>○ 「自助・共助・公助」とあるが、公助が先にきてもよいのではないか。公助が最後という考えは変えていただきたい。</p> | <p>○ 各分野別の前計画においてアンケートを実施した際も、市民、市内の事業者・団体等を対象とした。小金井市の計画なので、誤りではないと考える。</p> <p>○ 行っていない。ただし、障害者団体や自立支援協議会に配布し、お知らせもしているのでご理解いただきたい。また、計画概要版は音声におこして配布する予定である。</p> <p>○ 人が関わるサービスや機関が変わる時期として分けている。あくまで目安であり、すべての人がこのように分けられるとは考えていない。</p> <p>○ 特化しては盛り込んでいないが、「自らの健康は自らで守るという意識を持って健康づくりに取り組む」というところにその視点が入っていると考えます。</p> <p>○ 協働は行政に協力するという事ではないが、ご意見として承る。</p> <p>○ 現在1つのモデル地区を設定し、支援者を特定する作業を進めている。今後は、事業の展開を検証し、モデル地区の拡大を目指す。</p> <p>○ 自助・共助・公助は、この順番でないといけないということではなく、自分でできないことは、他人または行政が手助けして解決するという事である。</p> |
| 男性 | <p>○ サービス利用に結びついていない人への支援については、大きな課題になると思う。障害者計画でLD・ADHDの記載があるが、ほかの発達障害と意</p> | <p>○ 区別したわけではなく、現計画を検証した結果、今までと同じ表記となっている。P144でサービスに結びついていない人への支援があるように重要な施策と</p> |

| | | |
|-----------|--|--|
| <p>男性</p> | <p>識的に区別しているのか。</p> <p>○ 災害時要援護者の取り扱いについては、知られたくない個人情報も書き込み、地域の防災組織に提供することになっている。町会に渡し、個人情報のコピーが流出することを懸念している。</p> <p>また、支援者については、戸建であれば、班長がいると思うが、自分の場合はマンションなので支援者がいない。災害時要援護者支援のマニュアルをまとめる際は、支援者がいない当事者から意見も聞いて作成してもらいたい。</p> | <p>して捉えている。また、発達障害については、検討部会を設置し検討しているところである。</p> <p>○ 個別支援プランについては個人情報の項目が多いことは承知しており、担当者間で十分協議をした結果である。ただし、どうしても触れられたくない部分については柔軟に対応していく。個人情報については、町会との取り交わしを行い、流出しないよう細心の注意を払っている。</p> <p>近所に誰が住んでいるのか分からないというケースは、マンションだけでなく戸建でも言える。モデル地区を始めるにあたっては、支援を必要とする方に、支援する方を探すということが目的の1つである。地域の絆で災害時に対処できること目指している。モデル地区が始まったばかりなので、これからもいろいろなご意見を伺い、直すべきところは修正していきたい。</p> |
|-----------|--|--|